

～エンリッチ上萩山プラン～

作成年度 平成29年6月

作成者 農事組合法人上萩山集落営農組合

代表理事 荒木 定美

1. はじめに（プラン作成に至った経緯）

- ① 〇〇地区は現在33世帯。今年5月末で高齢化率は日南町が49%、〇〇が55.8%になっています。高齢化が進み年々農作業も少人数で行う事も出てきております。
- ② 当地区では平成17年に営農組合を設立し、機械共同利用や受託作業を行ってきました。
- ③ しかし、過疎化は進行する一方で、不在地主の農地も出てくるようになり、個人で農地を受ける対応にも限界が生じてきています。
- ④ 平成26年には、新たな取り組みとして、営農組合を法人化。農事組合法人を立ち上げ、〇〇地区の農地を借り受ながら、法人としての農業経営を目指しております。当法人で受けている利用権設定は不在地主が中心であり、当地区では未だ個人での農地管理の割合が高く約6割になっております。今後、借り受け面積も増えることが予想されます。
- ⑤ 中心となる構成員もほぼ全員が兼業農家のため、法人の作付け管理が不十分な問題点も生じています。
- ⑥ 近年では不幸にも、中心となっていた構成員が続けて亡くなり、現存する構成員が協力して〇〇の農地と集落を守っていく必要があります。
- ⑦ 必要な機械導入を行い、超急傾斜でも安全に、かつ計画的に作業ができる体制づくりを行っていきたいと考えています。
- ⑧ 構成員の中には和牛経営の認定農業者もおり、堆肥施用やワラ利用など連携を検討していきたいと考えています。また、他地域の法人とも連携して、機械の融通等、便宜を図っていきたいと思います。



写真) 法人設立総会の様子

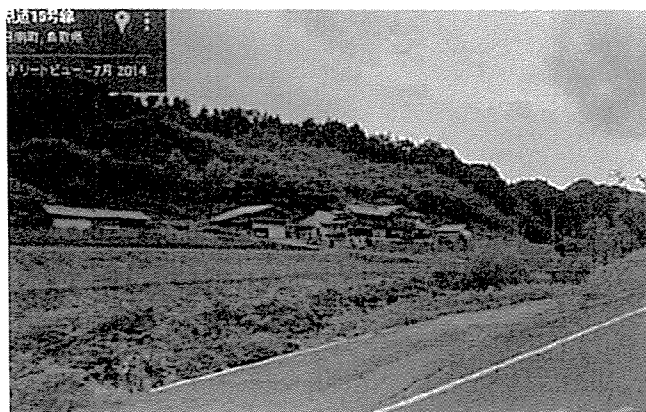


写真) 〇〇集落は町内一の超急傾斜エリアを持つ

2. 経営者の実績

- (1) 認定農業者 平成26年5月認定
- (2) 日南町 人・農地プランに位置づけられる中心となる経営体
- (3) 過去の補助事業の活用

平成20年 多様な集落営農支援事業（任意組織）

共同施設（80㎡）、乾燥機（30石）、籾摺機（5吋）、計量機、石拔機

平成21年 多様な集落営農支援事業（任意組織）

田植え機（5条植）コンバイン（4条刈）、乾燥機、トラクター、代掻きハロー、畦塗り機、動力噴霧器

3. 生産経営の現状・課題

- (1) 生産経営の現状

【水稲作付面積（実績）】

作付品目		出荷先	H27	H28	H29	参考
水稲	コシヒカリ	JA 出荷	3.72ha	5.22ha	5.47ha	上萩山集落水田 面積 151,620㎡ (法人占有率 約40%)
	ひとめぼれ	JA 出荷	0a	0a	0a	
	ヒメノモチ	JA 出荷	1.03ha	1.03ha	1.10ha	
ソバ	JA 出荷	0.3ha	0.54ha	0.22ha		
自己保全			0.4ha	0.4ha	0.48ha	
計			5.45ha	7.19ha	7.27ha	

【作業受託（実績）】

作業	H27	H28	H29
耕耘	0.3ha	0.3ha	0.3ha
荒代	0.3ha	0.3ha	0.3ha
植代	0.3ha	0.3ha	0.3ha
田植え	0.6ha	0.3ha	0.7ha
稲刈り	1.4ha	1.4ha	1.4ha

《所有機械・施設》 平成29年1月現在

所有機械施設

機械、施設名	形式、規模	取得年月日	台数
共同施設	80㎡	平成26年 1月	1棟
穀物乾燥機	SDR30MEZG	平成26年 3月	1台
籾摺り機	NPS550DWAH2	平成26年 3月	1台
選別計量器	NPA40AF	平成26年 3月	1台
石抜き機	EGA40B	平成26年 3月	1台
乗用田植機	クボタNSU55	平成26年 3月	1台
コンバイン	クボタARN43	平成26年 3月	1台
穀物乾燥機	サタケRMDR24	平成26年 3月	1台
トラクター	KL3150BE	平成26年 3月	1台
代掻きハロー	WBS2805BE	平成26年 3月	1台
畦塗り機	DZR300EJB	平成26年 3月	1台
動力噴霧器	MSA613-HA	平成26年 3月	1台

※所有機械はすべて平成20年度、21年度に導入した機械で、共同施設以外は、耐用年数を経過している。

(2) 経営に係る強み・弱み分析

<p>《強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成員の中に認定農業者がいる。 ・31名の構成員、多様な人材がいる。 	<p>《弱み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼業農家ばかりで、専業で努めることのできる労働力がない。 ・高齢者が多い(70～80代)
--	--

(3) 経営課題

超急傾斜、過疎高齢化というハンデを背負い、このままでは耕作放棄地、遊休農地が増加する一方です。今後は自己完結が可能な農地賃貸借による水稲栽培を前提に、地域に即した営農の仕組みとして、互助的機能を発揮できるよう構成員が一体となった健全な経営を目指すために、特に解決が必要な課題は以下のとおりです。

①作業オペレーターの確保

法人化前の組織時代から課題であった労働力の確保については、法人化をしてもなかなか解決の糸口が見えません。中山間集落協定や法人役員会を何度も繰り返し議論していますが、約6haの農地を守るためにはどうしても人材が必要です。

②管理作業の機械化

(i) 畦畔管理

刈払機で行っていますが、超急傾斜は腰に負担が大きく、夏場の暑い時期に高齢者が作業すると安全面が心配です。



(ii) 土壌改良材散布

土壌改良材は肥料散布器等を使いながら、圃場で作業をしています。品質及び収量向上を目指したいのですが、労力がついていかない状況です。

③米生産における品質改善

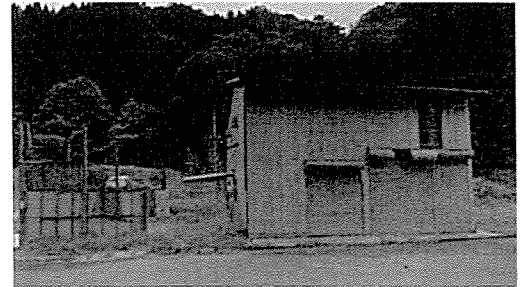
法人化する際に計画していた米の有利販売が実現できていない状況です。大きな要因は米の外観品質が良くないためです。水田内の雑草防除、病害虫防除、水田周辺の草刈りも年2回行ない、畦は3回行うよう努力しています。認定農業者に防除の時期等、知恵を貸していただきながら対応しています。しかし、超急傾斜であることから、作業が追いつかないこともあり、斑点米カメムシの発生を完全に抑えることができていない状況です。

④農業機械の長寿命化

当組合は上萩山集落全体を受益エリアとしていますが、田植え機やコンバイン等は運搬車がないため自走で移動しています。そのため、タイヤやキャタピラの損傷が激しく、修繕費が多くかかっています。

⑤倉庫の改善

現在の共同作業施設（右写真）は80㎡で、中には乾燥調整機械を格納しています。今後、新たな機械整備をしていく場合、倉庫の拡張が必要となります。



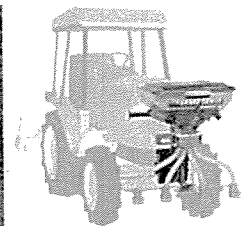
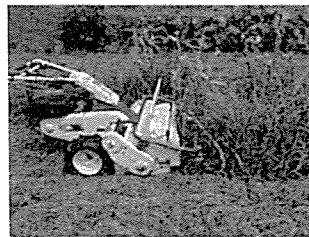
(4) 改善内容と目標値

①作業オペレーターの確保

地区で働く 氏はトマト専業農家であり、試験的に平成28年にオペレーターを依頼したところ、十分な仕事をしてくれました。今後、法人の計画を早めに立て、人手が不足する場合、早めに委託を行うことで作業を遅延することなく進めることができます。

②管理作業の機械化

畦畔管理には畦草刈り機を導入して、草刈り作業の軽労化を図ります。土壌改良材、肥料散布にはグラウンドソーワを導入し、耕耘と同時に元肥を施用します。



③米の品質改善

斑点米の原因となるカメムシを防除するには、殺虫剤による防除とともに畦畔等の草刈りが有効とされています。本田の防除管理、適切な水管理、特に出穂前後のカメムシ・イモチの防除を行い、普及所等の支援をいただきながら、より質の高い米作りを目指していきたいと思えます。また、食味テストを行い自分たちの作った米がどれくらいの数値が出るか客観的に調べてみたいとも考えます。

④農業機械の長寿命化

田植機、コンバインの自走距離を減らすため、トレーラー（台車）を導入します。



⑤倉庫の拡張

既存倉庫の横にコンテナを新たに設置し、作業機や道具を置くスペースを確保して、新たな機械導入を格納していけるようにします。

⑥未払金の償還について

別紙のとおり

《目標値》

	現状 平成28年	1年目 平成29年	2年目 平成30年	3年目 平成31年	目標年 平成32年
水稲作付面積	6.3ha	6.6ha	6.8ha	7.1ha	7.4ha

4. 事業効果

- ・機械化を図ることで、高齢者でも農作業ができるようになります。
- ・法人経営の安定化を図るため年間計画に基づき、可能な限り地域の農業者に作業を依頼し、法人としての力を付けていきます。
- ・将来的には米の直販に向けた取り組みを行い、有利販売を行うことで、地元農業者のモチベーションの向上に繋がります。

5. 目標達成に向けた取り組み（年次別の行動計画）

項目	内容	H29	H30	H31
規模拡大	作付及び受託面積の増	○	○	○
地域の農地保全	耕作放棄地の解消	○	○	○
品質向上のための防除 管理作業の徹底、	普及所の指導を 得ながら実施	○	○	○
畦草刈り機の導入（畦畔用）	がんばる農家プラン	◎		
グラントソーアの導入	がんばる農家プラン	◎		
トレーラー（台車）	がんばる農家プラン	◎		
倉庫	自己資本		○	
畔草刈り機（法面用）	自己資本		○	

※ ◎は県、町の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）、○は自社対応。

6. 機械・作物の年次別計画

年度	H29 (1年目)	H30 (2年目)	H31 (3年目)	H32 (目標年)
機械導入計画	畦草刈り機(畦畔用) (355,000円) グランドソー (211,000円) トレーラー (915,000円)	倉庫 (自社対応) 畦草刈り機(法面用) (自社対応)	-	-
対象作物の 生産計画	水稲 6.6ha そば 0.2ha	水稲 6.8ha そば 0.2ha	水稲 7.1ha そば 0.2ha	水稲 7.4ha そば 0.2ha
作業受託	薬剤散布 0.6ha 畦塗り 0.5km 刈取 1.4ha 乾燥 5.0ha 代掻き 0.3ha 田植え 0.7ha	薬剤散布 0.8ha 畦塗り 0.6km 刈取 1.6ha 乾燥 5.2ha 代掻き 0.5ha 田植え 0.8ha	薬剤散布 1.0ha 畦塗り 0.7km 刈取 1.7ha 乾燥 5.4ha 代掻き 0.7ha 田植え 1.0ha	薬剤散布 1.2ha 畦塗り 0.8km 刈取 1.8ha 乾燥 5.6ha 代掻き 1.0ha 田植え 1.2ha

7. 支援事業の内容

(単位：円)

事業内容	事業費 (消費税抜)	数量	導入機械の 使用目的	事業効果・目的	負担区分
畦草刈り機	355,000	1台	草刈りの軽減	高齢化の為草刈作業 の効率化を図る	県 1/3 町 1/6
グランドソー	211,000	1台	改良材の散布	作業の効率化 正確な施肥作業	県 1/3 町 1/6
トレーラー	915,000	1台	農業機械の 運搬	田植機、コンバイン の自走距離を減らす	県 1/3 町 1/6